

第5回 GPAJ 難民危機研究会

日時：2022年6月3日（金）20時～22時（日本時間）

講師：WELgee 代表理事 渡部カンコロンゴ清花 氏

テーマ：難民支援に向けた WELgee の取り組み



概要：

第5回研究会では、日本における難民および難民申請者の支援活動の前線に立って活躍されている渡部カンコロンゴ清花氏（WELgee 代表理事）を講師としてお招きし、WELgee の取り組みについて紹介していただいた。

（講演）

日本における難民認定率は1%を切っており、難民審査結果が出るには平均4年4ヶ月がかかっている。難民の中には、複数の言語を流ちょうに使いこなす方や、エンジニア、ITプログラマー、経営者、起業家、大学教授など、秀でた能力を持っているにもかかわらず、その能力を生かすことなく、難民審査が終わるのを待ち続け、心身ともにボロボロになっていく方も少なくない。WELgee では、このような方々を優秀な人材として生かしていく場を作るため、JobCopass という事業を2017年から開始した。これまでJobCopass を通じ、15社で難民申請者を正規採用していただいている。今後もこの事業をさらに発展させ、難民申請者の就業機会創出に努めていきたい。この事業を推進していくため、WELgee ではマンスリーサポーター制度や、メンターになっていただく方を募集している。是非、ご関心を持っていただける方はご協力いただきたい。

（ディスカッション）

講演後のディスカッションでは、日本における難民審査プロセスの問題（審査に時間がかかるのはなぜか）、日本における難民認定の緩和化の課題（緩和化を阻むのは何か）、事業推進形態として一般社団法人化の可能性とNPOとしての優位性、技能を有しない難民への支援のあり方、日本社会の寛容性と今後の日本社会のあり方（難民、外国人労働者、移民受入れについて）、外国人の日本定住の課題（生活者の視点）などのテーマについて、渡部氏を交え、参加者間で活発な意見交換が行われた。